|  |  |
| --- | --- |
| 第16回災害対策委員会議事録 | |
| 日　時 | 平成30年9月1日（土）13：30～ |
| 場　所 | 榊原病院　第一研修室 |
| 参加者 | 辻（委員長）、竹本（鈴鹿亀山ブロック）、堀川（津ブロック）、岡、高柳（松阪・伊勢ブロック）、西村（熊野ブロック）、三上（オブザーバー） |
| 議　題 | １．各ブロックからの報告について  ２．実践報告会の発表について  ３．P-HUG（仮）の事例について  ４．その他 |
| 議事内容 | １．各ブロックの取り組み報告  ・ 四日市でHUGを実施。  ・ 大きな台風が通過したが、その後の被害状況の報告について。  　　　→　大きな影響はないが、GHで保健センターに自主避難した施設がある。  松阪市で災害対策本部が立ち上がった。具体的な活動は不明。  10月にDPAT三重県研修  ２．実践報告会の発表について  ・ 作成途中の資料（三上作成）を見た後、発表内容を検討。  **発表内容に加える内容：**  「P-HUGの内容」「研修のアンケート結果」「委員メンバーの紹介」  「HUGが貸出できるとのアナウンス」「災害対策委員会が立ち上がった経緯」  「災害時の横の連携強化」「協力依頼も兼ね、実際の災害時の具体的活動内容」  「HPで書き込みができるようにする」「役員だけのメーリングリストを他メンバーに広げる」  **時期**：12月の土曜日　　**場所**：多度あやめ病院  発表者をどうするか？中心は役職者で、岡氏が部分的に発表　経緯→役員、実際の活動→岡氏  ３．P-HUG（仮）の事例について  ・次年度の研修会開催に受けて準備をしていく  ・避難所で精神状態が増悪した場合の対応について  ・シチュエーション、避難所、発災から2WEEK  ・三重Pから派遣されたPとしての立ち位置  ・統合失調症患者  ・事例カードを作成  P-HUGの作成について  ・振り分けた人たちが精神障害だった設定？  ・ゲーム性を持たせるようであれば場所ではなくて、どの職種に振り分けるか？  ・地域包括ケアシステムみたいに、P－HUGではなくてHUGの中にP的要素を織り込む  形にする  ・被災後の避難所運営から地域マネジメントに設定を広げる  ・地図を使用してブロック分けして対応方法を検討するとゲーム性が高まる？  ・地図を使用して施設ごとに起こってくる問題を分ける  ・HUGの中に事例を入れ込んでみる  ・コンセプト→PSWとしてどう動くか？  ・Pの持ち味を重視するのであれば、発災からの時間軸を再検討する？  ・実際の地域を想定して、事例のケースに想定した場合どう対応するか？  同じ問題でも地域での資源の格差により対応方法が変わってくる。より実践に近い？  ・社会資源が豊富な地域、そうでない地域、不足している地域  →どのような資源が不足しているかが浮かび上がってくる？  実在する地域の課題、良い点が見えてくるためそれを発信していく  資源の設定をしておく → 社会資源の一覧表を作成しておく  **次回までのタスク**  具体的な設定を考える。  ・市単位で作成する。  ・ハザードマップを参考にする。  ・社会資源は何を洗い出す？　→　GH、作業所、保健センター、相談センター等  ・事例をカード化する（辻委員長）　繋ぎやすい事例が望ましい。  ・Pとしてのベースの知識を問う問題  ・保健所、警察からの相談などを入れる  ４．その他  ・愛知県協会の愛知県宿泊研修で災害対策での分科会の依頼あり  実践報告会をするから、タイアップは可能であるとの返答  どのようなかたちになるかは、９月１日に主催者の会で検討を行う予定  ・委員長からのお知らせ　ラインで情報の共有をする  **次回災害対策委員会**  内容：発表のリハーサル  　日時：11月10日（土曜）時間13：30～  場所：榊原病院  ※プロジェクター使用　　資料：スライド　発表７分？　20分必要？ |
| 次　回 | 平成31年2月2日（土）13:30～　榊原病院 第一研修室 |